

解決!

新学習指導要領が  
求める地図活用

## 地図帳が誘う豊かな言語活動 —位置から関係を問う発問まで—

玉川大学教育学部教授 寺本 潔

「言語活動の重視」が新しい学習指導要領で提唱されている。社会科の地図学習も当然、言語活動を豊かにする役割を担っている。なぜなら、**地図も言語の一種だからだ**。地図に描かれた点や線、施設、土地利用などの記号や標高に応じた色彩はいずれもサイン(記号)という一種の言語であり、地名は言葉そのものでもある。ここでは、地図帳を通してどのような発問を工夫すれば豊かな言語活動に誘えるのか、**A～D**の四つのパターンを提示したい。

### 1 パターンA

：位置や場所をたずねる発問(同定)

「位置」という概念は、数値的位置(方位や距離、緯度・経度)と関係位置(複数のものの相対的位置)で捉える場合に使われるが、「場所」は位置に加えて、歴史的な由来やイメージも加味し多義的に捉える場合に使う。どちらも「○○はどこにありますか?地図を使って詳しく説明しましょう。」と発問することで言語活動が引き出される。

『**地図を使って**』とあえて指示するのが**指導の極意**である。

たとえば「**東京都は日本のどこにありますか?地図を使って詳しく説明しましょう。**」と問い、児童から「**本州の真ん中にあり、太**

**平洋側にあります。**」(位置)、「**人口が最も多く江戸時代以降、政治や経済、文化の中心地です。**」(場所)と答えが返ってくれば満点。

「○○はどこですか?」は地図帳を読み取る際の基本的な発問であり、誰にでも思考を促す問い方となる。「東京都の周りにはどのような県が接していますか?」「たくさんの人口や交通網が東京都やその周辺に集まっているのは、広い平らな土地(平野)があるからですね。何という平野があるからですか?」と少し視野を拡げるだけで関東平野の真ん中にある東京という見方も理解できるようになる。

歴史単元を例にしてみよう。「源頼朝は、どこに幕府を開きましたか?」は第1発問としては簡単だ。児童からは「鎌倉です。」とすぐに返事が返ってくる。むしろ、次の第2発問が鍵となる。「近畿(京都)から遠い関東の鎌倉にどうして頼朝は幕府を開いたのでしょうか?」が授業の成否を決める。当時の日本全体からみた鎌倉の位置や鎌倉周辺の地形、源氏の本拠地であった東国の要地である点が地図から見えてくる。もちろん、地図帳(『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』)で、「かんたんものさし」を使って京都からの距離を測らせるとさらに学習に深まりが生まれる。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.16~17 かんたんものさし

「○○はどこですか?」「どのように広がっていますか?」「周りはどうなっていますか?」「どうして○○という場所にあるのでしょうか?」は、地図から言葉を生み出す指導の基本として意識しておきたい。

## 2 パターンB：地域をくらべる発問（対比）

何とんでも「くらべる」発問は、科学的思考を促す発問の定石である。小学生には、できる限り二つの事物事象を丁寧に対比させることをおすすめしたい。たとえば、5年の食料生産の単元で食料自給率が話題になるが、日本とアメリカ合衆国（以下、アメリカと略記）の地図を同縮尺でくらべさせ、「日本とアメリカはどうして自給率の差がこんなにあるのかな?」「二つの国の国土の大きさをくらべてみたら?」「両国の農業の中身をくらべてみたら?」「もしアメリカからの穀物の輸入がなくなったら、日本人の食べるものはどうなりますか?」などと、くらべる発問が有効に働くようになる。

単元「暖かい土地と寒い土地の暮らし」の学習もくらべる発問が鍵になる。たとえば自分たちの住んでいる県と沖縄県（あるいは北海道）の緯度を地図帳でくらべさせる→さらに地図帳p.72に掲載の『理科年表』の気温表から1月・2月の那覇市と札幌市の平均気温をくらべさせる→沖縄と北海道のいろいろなくらしの様子を調べる→「くらべてみて住むとしたら、どちらの方に住みたいですか?」

と発問することで、さらに特色が客観的に理解できるようになる。

空間的な比較だけでなく、歴史単元では時代をくらべる発問も面白い。地図と絡めた発問では、「江戸時代は五街道の整備が進められたけれど、明治時代とくらべると交通の発達はどう変わったのでしょうか?」「第二次世界大戦の前と後とをくらべると日本の領土はどう変わったのでしょうか?」などは地図を必ず使うため、言語活動に深みも出る。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.70  
⑤江戸時代の交通路

## 3 パターンC：動きを問う発問（移動）

地図帳を眺める一番の楽しみは、図上旅行の気分を味わえる点にある。つまり、地図の上で「動き」がイメージできるのが面白い。単元「わたしたちの○○県」のまとめで「2泊3日で県内をめぐるおすすめ観光ルート

企画するとしたら、どのような案がつくれますか？」や単元「日本の食料生産」で食料輸入を考える際、「小麦がミシシッピ川を下って集められ、日本に運ばれてくる様子をイメージできますか。」と、人やものの動きが頭の中でイメージできる発問がこれである。

歴史の単元では、源氏と平氏の戦いの場所を示した地図から、次第に平氏が西国に追い詰められていく様子が想像できたり、江戸時代の大名行列が通った道をたどれば、参勤交代の時代の旅が想像できたりする。発問としては、「どのように運ばれてきますか？」とか「どこを通過してやってくるのでしょうか？」などといった問いかけがこの種の発問となる。

#### 4 パターンD：関係をたずねる発問（関係）

「越後平野や庄内平野などではどうして米づくりがさかんなのでしょう？地形と川、気候とどのような関係がありますか？」とたずねる発問が、関係をたずねる発問である。自然と人間生活との関係、核となる農工業の生産地とそれを成り立たせる条件との関係、土地柄、土地に根ざした文化の時代を挟んだ関係など関係をたずねる発問こそ、最も社会科としての水準が高い。

「寒い土地のくらしとエネルギー消費量との関係は？」「工業のさかんな地域と交通網の発達との関係は？」などの比較的易しい関係知から、「市の南に市街地が広がり、発展してきた理由は？」「明治維新を起こした藩（薩摩・長州）と親藩・譜代・外様大名の分布との間に何か関係はありますか？」などといった複雑な関係知まで、関係をたずねる発問こそ社会科らしい対話や討論の生まれる授業といえる。

基本は「二つの事柄の間にはどのような関係がありますか？」である。「原因と結果、

始まりと終わり、条件と効果など関係を問うことばで、説明してみよう。」と児童に促すことができたらさらによい。関係を見出す力は、社会事象を構造的に捉える力に通じる。現代に生きて働く学力といえる。

#### 5 言語活動を豊かにする授業の条件

言語活動を豊かにするための授業の条件は、第1に言葉で表現（疑問や解釈、説明、論述、要約）したい意欲をもたせることができるか、第2に児童にとって言語化しやすい方法が提示されているか、第3に言語活動の結果が単元のねらいに活かせるかの3点である。

「どうして太平洋ベルトに工業のさかんな地域（工業地帯や工業地域）が集まっているのかな？」という疑問を児童にもたせる授業であることが、第1の条件である。児童がそのわけを説明したくなるほどにその事象に関心を抱き、「自分のこと」に引きよせて問いを捉えることができるかが、最も大切な授業の条件である。

太平洋ベルトの題材に例をとれば、有名な工業地帯や工業地域の名称を確認しつつ、「京浜工業地帯の『けいひん』ってどのような言葉からきているの？」「中京や阪神もどうして『ちゅうきょう』や『はんしん』っていう呼び方をするのか」と名称の由来をたずねる発問から入ると効果的である。

「けい（京）って東京の京ではないの？」「ひん（浜）って横浜の浜かな？」と予想が飛び出したら言語活動も豊かになる。

ひととおり、名称が確認できた後で「どうして工業地帯や工業地域の多くが、太平洋ベルトの間に集まっているの？」を発問すれば、自然な流れとなる。もちろん、その前に自動車産業について学んでいるので、大手の自動車会社の本社の場所を列記して問いかけても



## 6 「観察・資料活用の技能」にもっと注目を

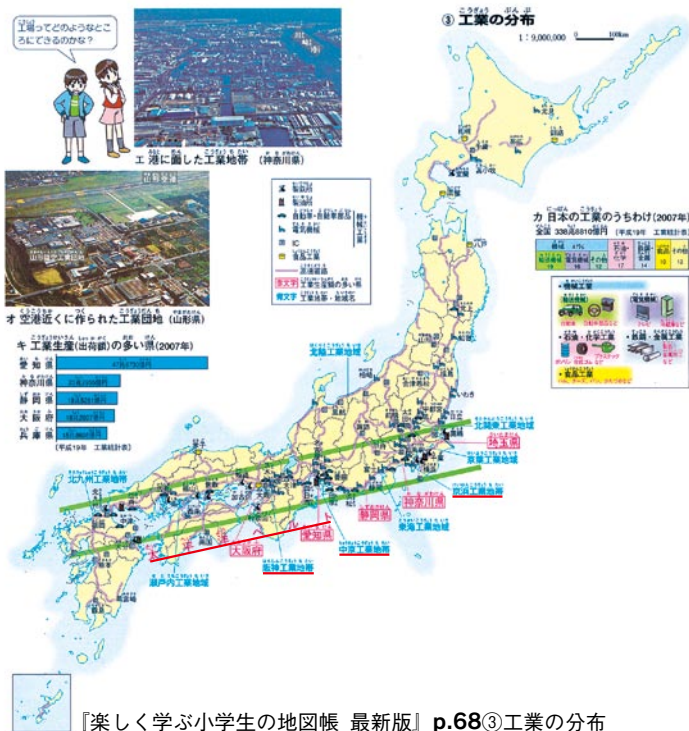
面白い。

第2の言語化しやすい方法がとられているからであるが、教室に日本地図が掲示されていれば言語化しやすい。地図帳だけで授業を進めないで掛地図やデジタル黒板を使い日本地図を準備してほしい。そうすれば、児童は地図を使って理由を説明するはずである。

第3に言語活動の結果が単元のねらいに活かせるからであるが、太平洋側に工業のさかんな地域が多いことを学ぶことは学習指導要領にも明記されている。工業の立地を知るとは工業の特色を理解する上で欠かせない事柄なのである。

観点別評価（評価規準）の文言が一部変わった。しっかりと児童に思考・判断させた結果を確かな表現につなげるような授業をという改訂である。ポイントは「社会的な思考・判断・表現」と「表現」が「思考・判断」にドッキングした点にある。一方、「観察・資料活用の技能・表現」の「表現」がこの欄からはなくなり、「技能」単独で規準がつけられた。「思考・判断・表現」を下支えする観点は「観察・資料活用の技能」であり、さらに「社会的な事象についての知識・理解」がある程度形成される必要がある。しかも、社会科の学習技能の中核は実は地図技能である点を忘れてはならない。

『地図帳』は社会科学習の副教材ではない。同じ教科用図書（検定教科書）なのである。地図は独自の言語世界をもっている。二次元の紙の上に描かれた点や線、地名が織りなす世界は、容易に文字に直して表現できない。社会科の基礎基本は、「地図の学力」と言い換えてもよいくらい重要であることを読者の方々に気づいてもらえたら嬉しい。新年度からお目見えする『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』は、従来にない魅力的な編集の工夫が施されている。豊かな言語活動を誘ってくれるはずである。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.68③工業の分布

### ★地図学習の極意一言語活動



- ①言語活動を豊かにする発問は、同定・対比・移動・関係の四つから行う。
- ②地図帳だけでなく掛地図を準備して説明場面を生み出す。
- ③常に地図を使って疑問や理由を発言したくなるように発問を工夫する。